

学校での動物飼育に関する教員研修について

桑原保光

はじめに

群馬県獣医師会では、群馬県総合教育センターや高崎市教育センターの小・中学校初任者研修として動物飼育の実際について講義とウサギやモルモットのふれあい体験実習を実施しています。幼稚園や小学校で実施されている、「動物ふれあい教室」の依頼方法や方針についての説明や動物飼育の在り方の充実を目指して教員研修に協力しています。その内容について概要を報告いたします。

1 教員研修内容について

講義では、子ども達が「命」の大切さについて考えるための動物飼育の在り方や、幼稚園や小学校で行われている動物ふれあい教室や、飼育委員会における動物飼育を例にして講義が行われます。特に動物飼育の考え方は、飼育することは動物と共に暮らすということ、教材としての「物」ではなく、子ども達にとってのよき「生きた仲間」であることを、教師全体で考え方を統一することを約束してもらいます。また、動物飼育で世話をすることは「命を預かる」ことを意味し、動物の気持ちを考え、相手の立場になって、やさしい気持ちで世話をするように、言葉がけをして指導することが大切であることを強調しています。

子どもは、身近な動物と触れ合いを通して、体のぬくもりや心臓の鼓動を感じ、自分も生きていることを実感しながら、命の大切さに気付き、思いやりながら世話をすることができるようになります。また、継続飼育で子どもの気持ちが変化し、気付きの質の向上に繋がっていきます。

動物体験教育においては、まずは教師が目的に応じた動物種の選択やどのように飼育するかといった動物飼育に関する知識を持っていること、そして子ども達の気付きを高める問いかけをしていき、動物に関する新たな発見が興味関心を深めていくことが重要であることを理解し

ていただきます。

生活科や飼育委員会の飼育体験、道徳教育等、学校の教育活動で「命の教育」を意図的、計画的に行っていくことの必要性を感じていただき、教室内飼育の効果と有効性を理解していただきます。

初任者研修の「命の教育」で、動物のかけがえのない「いのち」を意識し、命とは何か、命のもたらす価値とは何か、命があるからこそできることは何なのかについて、各学校での生活場面や動物飼育学習において、子ども達と共に深く考えてご指導いただけるようお願いしています。

動物飼育は飼育目的により考え方、飼育方法が異なります。動物の習性と特徴を理解して飼育することが大切です。特に子どもの理解度や年齢、体力に応じた飼育方法を選択し、生活科での飼育と飼育委員会の飼育活動の意義や目的を明確にして飼育をスタートすることが必要です。また、飼育年数や飼育頭数は事前に決め、期間限定のレンタル飼育や、休日の飼育は家庭での学校飼育動物ホームステイ計画など、学校の現状にあった方法で飼育活動を進めていただきたいと思います。

2 事業依頼と方針について

(1) 群馬県保健福祉部から、動物ふれあい事業の参加申込書の送付されます。

参加条件として、動物を飼育している公立小学校と幼稚園が対象になります。特別支援学校・盲学校・聾学校も対象としています。（哺乳類・うさぎ・モルモット・鳥類等を飼育している小学校が対象）

(2) 群馬県教育委員会の学校獣医師の指定書の交付

各小学校に担当獣医師を指定し、下記の事項を実施します。

①飼育動物の衛生管理指導と治療が無料になります。

②生活科・理科・道徳・飼育委員会等の

授業支援や飼育指導を行います。

- ③生活科「動物ふれあい教室」を実施します。
- ④初任者教員研修等に講師を派遣します。

(3) 事業方針

- ①積極的な学校を積極的に支援します。
- ②何度でも依頼があれば協力致します。
- ③依頼の回数に制限はありません。
- ④依頼が無ければ、無理な押しつけはしませんので、お気軽にご相談下さい！。
- ⑤動物ふれあい教室の依頼方法

担当獣医師に予定候補日を1～2ヶ月前にFAX等で調整して実施して下さい。

動物ふれあい教室等の開催時間帯は午後1時頃～3時頃が希望です。

担当獣医師と相談し日程を決め「5時限目」に実施して下さい。

- ⑥治療は電話で予約をお願い致します。

3 動物飼育の実際について（ふれあい体験実習）

生活科の指導案をもとに、実際に動物との触れ合い方の実習を行っています。先生方もウサギを抱いて感動し、動物の命と温かさに触れ実体験の重要性を再認識しているようです。各学校で教室内動物飼育を実現できるところを願っています。

- (1) 生活科動物介在教育『動物ふれあい教室』の指導案実施例を紹介します。

●生活科動物介在教育授業実際例 1

[動物ふれあい教室（ウサギ編 写真①～④）]

- (1) 大単元名「おおきなあれ」

小単元名：「一生懸命世話をするよ」

- (2) 小単元の目標

動物を育て生き物に関心を持ち、成長の様子を観察し生命を持っている事を知り大切にする。

- (3) 指導要領

- ・獣医師とのティームティーチングを取り入れる事により、正しい知識を身に付けさせると共に、動物への興味関心を喚起する。
- ・グループ学習を取り入れる事によって、ウサギとのふれあいを多く体験できる
- ・ウサギとのふれあいを通し、生命の尊さや神秘性について気付かせる。

- (4) 単元指導計画

事前：ウサギのこしりたいな！

本時：生きているってどんなこと？

うさぎの抱き方と世話の仕方を学ぶ。

事後：ウサギを教室で飼育する。

- (5) 系統

中学年：動物の体の仕組みや生活を理解する

高学年：動物を飼う事の責任について学ぶ

- (6) 本時の学習

めあて：ウサギを大切にしながら、やさしく

抱くことができるようにする。

準備：聴診器（6グループ12本）

実験用心音計 めいぐるみ・ウサギ12羽

- (7) 評価基準

- ・進んで心音を聴き、ウサギとのふれあいに意欲的に取り組んでいる。
- ・ウサギの気持ちになって、恐がらないように抱こうとしている。
- ・ウサギも自分も生きている事が分り、命を大切にしようとしている。



写真① 担任教師と獣医師の説明



写真② T・T方式グループ学習「ウサギと仲良く遊ぼう！」



写真③ 仔ウサギの観察



写真④ ウサギに優しく接する



写真⑤ ウサギの心音を聴く、
ドキドキしている



写真⑥ 自分の心音との比較



写真⑦ 友達の心音が聞こえる



写真⑧ 怖がる子どもには無理をさせない
タオルを使って抱かせてみる



写真⑨ ウサギが抱けた、あったかい！



写真⑩ ウサギとのふれあい楽しい



写真⑪ 獣医師に直接質問してみよう



写真⑫ 手洗い指導

●生活科動物介在教育授業実際例 2 [動物ふれあい教室（鳥類編写真①～④）]

(1) 大単元名「生き物と友達」

小単元名「生き物と友達になろう」

(2) 目標

①生まれたチャボを育て世話をした動物の成長、結実などに関心が持てるようする。

②動物の飼育活動を通じて、成長や生命の大切さを実感させる。

(3) 学習内容

①飼育舎や教室で飼育している動物と仲良く遊ぶ。

②動物とのかわりを通じて、気づいたこと、感じたこと、驚いたことを作品にする。

(4) 展開

①獣医師とのティームティーチングを取り入れる事により、正しい知識を身に付けさせると共に、動物への興味関心を喚起する。

②グループ学習の中で日頃の疑問と飼育方法について獣医師に直接聞いてみる。



写真① 鶏に心臓があるのかな



写真② 鶏の耳はどこかな



写真③ 鶏の好きな餌は何か？

[遊びの内容]

①チャボの持ち方指導

②餌、ミルワームを与えてみる

③雌雄の見分け方

④体の特徴 耳を観察してみる

⑤その他

[ふれあい]

①児童と鶏の心音聴診

②チャボの取り扱いの注意事項

・両手でそっと押さえる

・雄のケヅメに注意

・顔の前でチャボと向き合わない

準備：聴診器（6グループ12本）、実験用心音計、サークル、餌



写真④ 夏休みに人工孵化で
生まれました

(桑原動物病院どうぶつのウェルネスセンター院長)